

イギリス国語教育における「みること」の教育の研究 －テレビ番組を用いた動画リテラシー教授法を中心に－

羽 田 潤

1. 研究の動機・目的

これまで、子どもの日常的言語環境に根ざしたリテラシー教育の開発には、メディア・リテラシーの観点が不可欠であるとし、なかでも、視覚的メディアを対象とした「みる」という解釈の重要性について分析、考察を行ってきた。“Mixed Media”⁽¹⁾では、マンガ、アニメーション、シェイクスピア映画を、“OURSELVES”⁽²⁾、“The Media Book”⁽³⁾では、ポートレート等の視覚的メディアを用いた教育によって、学習者が日常的に育んでいる「みる」力（ビジュアル・リテラシー）を学習の場で再認識させ、学習者の読解・表現能力として定着させようという教授法があらかになった。

「みる」という行為は、学習者にとってきわめて日常的な行為であるがゆえに、そこに伴う解釈を意識することは多くない。だからこそ、「みること」の問い直しは、日常的な＜私＞に対する問い直しへと繋がる。くわえて、学習者自身が、何を考え、どのような価値観を持っているのかを再認識させることの重要性和、それを出発点として価値づけなければ、メディアを主体的・批判的にみつめることができないという考え方がイギリスのメディア・エデュケーションに一貫していることがみてとれた。

これら近年のメディア・リテラシー教育の方法論の基礎となっているのが、2000年に提示された、英国映画研究所（BFI）⁽⁴⁾の「基本教授テクニック」（資料1）である。メディア・エデュケーションの6つの基本アспект（資料2）を、より、教師の側に立った実際的な指導法として、また、どのような教科でも活用できる汎用性の高い方法論として、メディア学習に関わる教科書編集に影響を与えているといえる。その理論に基づき、現場の反応を確かめつつ、英国映画研究所自身によって編集が始まったのが、2003年に刊行が始まった“TEACHING FILM AND MEDIA STUDIES”シリーズ⁽⁵⁾である。

本シリーズは、具体的な学習材と、学習計画、ワークシートを添付した、動画リテラシー教授法の実践的指導書である。本稿では、これら指導書に具現化された体系的な動画リテラシー教授法、特に、学習者に身近なテレビ番組を用いた手法に焦点をあて、その教授方法のありようにせまりたい。

資料1 基本教授テクニック⁽⁶⁾

	基本教授テクニック	基本教授テクニックの内容（羽田がまとめたもの）
基本	①静止画像 (Freeze Frame)	画面内の視覚情報を確認し、その意味を考えさせる。動画を静止させる方法をとるため、静止画像（Freeze Frame）と名付けられている。
	②音と画像 (Sound and Image)	聴覚情報（音楽、効果音、音声、沈黙）を確認し、視覚情報とどのように関わり意味を生成するのかを考えさせる。
	③ショットの位置 (Spot the Shots)	動画の物理的単位であるショット（日本ではカット）が、どのような順序で組み立てられているのか（編集過程）を確認し、その意味を考えさせる。
応用	④最初と最後 (Top and Tail)	タイトルシークエンス（最初）と、エンドロール（最後）に提示される情報から、動画テキストのジャンルや、誰が製作したか、対象としている視聴者は誰かということを考えさせる。
	⑤視聴者意識 (Attracting Audiences)	視聴者を意識した商品特性が端的に現れる販売促進活動の分析を通して、動画テキストの商品的価値や、主題の考察を行わせる。
発展	⑥再話 (Generic Translation)	プリントから動画へ、動画からプリントへテキストの再話を行うことで、「動画の言語」の特性を学ばせる。
	⑦メディアの相関比較 (Cross media Comparisons)	異なるメディアで製作された同じ作品の比較を行わせることで、商品としての動画の特性を学ばせる。
	⑧シミュレーション (Simulation)	学習者を製作者の立場におき、テキストの製作から、宣伝、上映までの過程をシミュレーション形式で行わせることで、動画テキストの特性を総合的に学ばせる。

資料2 英国映画研究所・メディア・エデュケーションの6つの基本アспект (Bazalgette, C. (ed) "PRIMARY MEDIA EDUCATION A CURRICULUM STATEMENT" (BFI Education Department, 1989. 1) のp. 8 とp. 20 のリストを訳出し、合成したもの。⁽⁷⁾)

①メディアの発信母体 (media agencies)	だれがコミュニケーションしているのか、それはなぜか。	だれがテキストを作成するのか・作成過程における機能について・メディア発信機能について・経済的背景とイデオロギーについて・意図と結果について。
②メディアの類別 (media categories)	どのような種類のテキストか。	様々なメディア(テレビ・ラジオ・映画ほか)・形態(ドキュメンタリー・広告ほか)・ジャンル(SF・メロドラマほか)・その他のテキスト分類、類別化と理解の関連について。
③メディアの技術 (media technology)	どのように作成されるか。	どのような技術をだれが用いるか・使用方法・作成過程および最終作品におよぼす違いについて。
④メディアの言語 (media languages)	どのように意味するところを把握するか。	いかにメディアは意味をつくりだすか・解釈コードや慣用について・語りの構造について。
⑤メディアの受容者 (media audiences)	だれが受けとり、どのような意味をそこに見出すか。	どのように受容者と判断され、形づくられ、語りかけられ、伝達されるのか・どのように受容者はテキストを発見し、選び、消費し、それに応じるのかについて。
⑥メディアの象徴性 (media representation)	どのように主題を表すのか。	メディア・テキストと実際の場所や人物、出来事、考えと関係について・ステレオタイプとその効果について。

2. 英国映画研究所の"TEACHING FILM AND MEDIA STUDIES"シリーズ

"TEACHING FILM AND MEDIA STUDIES"シリーズは、16歳以降の、メディア・スタディーズを専門的に学ぶ学習者のための教師用指導書である。本書を購入すると、IDとパスワードが与えられ、専用のサイトにアクセスすると、学習者用のワークシート、補助資料等が閲覧、ダウンロードできる仕組みとなっている。本書の教授方法は先述したように、基本教授テクニックを基礎とし、より実際の教材を提示しながら、具体的な学習活動を行えるよう教師を導くものとなっている。

シリーズは2008年11月現在20冊刊行(資料3)されており、古典的名作から、現代的デジタルメディアまでと、幅広くとりあげられている。これらは、大学入学資格試験であるAS・Aレベルの試験内容に合致した形で構成されており、指導者は、学習者のニーズに応じて学習単元を選択し、その分野における学習能力を向上させることが可能なものとなっている。

資料3 “TEACHING FILM AND MEDIA STUDIES”シリーズ

- ①Teaching TV News (ニュース番組)
- ②Teaching TV Soaps (連続ホームドラマ)
- ③Teaching Digital Video Production (デジタルビデオ製作)
- ④Teaching Scriptwriting, Screenplays and Storyboards for Film and TV Production
(映画とテレビ製作のための台本、シナリオ、絵コンテ)
- ⑤Teaching TV Sitcom (シチュエーションコメディ)
- ⑥Teaching Women and Film (女性と映画)
- ⑦Teaching World Cinema (世界の映画)
- ⑧Teaching Contemporary British Broadcasting (現代のイギリス放送業界)
- ⑨Teaching Contemporary British Cinema (現代のイギリス映画)
- ⑩Teaching Music Video (ミュージックビデオ)
- ⑪Teaching Analysis of Film Language (映画の言語の分析)
- ⑫Teaching Auteur Study (監督研究)
- ⑬Teaching Film Censorship and Controversy (検閲と議論)
- ⑭Teaching Men and Film (男性と映画)
- ⑮Teaching Videogames (ビデオゲーム)
- ⑯Teaching Stars and Performance (役者と演技)
- ⑰Teaching TV Drama (テレビドラマ)
- ⑱Teaching Black Cinema (黒人映画)
- ⑲Teaching Film and TV Documentary (映画とテレビのドキュメンタリー)
- ⑳Teaching Short Film (短編映画)

本稿では、上記シリーズの中から、“Teaching TV News”⁽⁸⁾をとりあげる。ニュース番組の比較は、マスメディアによる情報操作について考えるといった、メディア・リテラシー教育の実践として比較的多く見られる手法である。しかし、情報量の多いニュース番組をどのように系統的に学習していけばよいのか、その方法については、試行錯誤の段階であるといつてよい。そこで、本書がどのようにニュース番組をとりたて、何を学ばせているのかをあきらかにし、ニュース番組を用いて学習することの意義について改めて考えてみたい。

3. “Teaching TV News”の概要

“Teaching TV News”は、99頁の指導書本体と、ウェブサイトからダウンロードする25種類のワークシート（資料5）によって構成されている。

資料4 “Teaching TV News”の概要（※目次を羽田が訳出。数字は便宜上加えたもの。）

第1章 導入

1-1. 評価項目との関わり

1-2. 教え方の概要

1-3. 学習計画の例1：ニュース番組と公共放送

1-4. 学習計画の例2：ニュース番組と製作方法

第2章 予備知識

2-1. 公共放送とニュース番組の歴史

2-2. 形式（form）と慣習（convention）

2-3. 視聴者と組織

2-4. 象徴性とイデオロギー

第3章 ケース・スタディ

3-1. 『News at Ten』の場合

3-2. 『Tonight with Trevor McDonald』の場合

3-3. 『Panorama』の場合

資料5 学習者用のワークシート（BFIの専用サイトよりダウンロードしたものを訳出）

	ワークシートタイトル	羽田による6アスペクト分類
1	現在のニュース番組における公共放送のあり方について確認しましょう。	メディアの発信母体
2	ロール・プレイカード（実在するニュース番組に関わる人物名と、その経歴が書いてある）。	発信母体
3	ニュースの価値を判断しましょう。	言語
	書き込み用シート。	
4	番組の冒頭シーケンスをどうするか：報道価値を判断しましょう。	言語
	書き込み用シート。	
5	放送内容を決定しましょう。	言語
6	番組内容をチェックしましょう。	言語
7	ニュースを製作しましょう。－ニュース原稿を書きましょう。	言語
8	ニュース番組のジャンルと時事問題番組を調べましょう。	分類
	書き込み用シート。	
9	番組ブランドの独自性を見つけることが出来ますか。	言語
10	キャスターの話し方の形態を調べましょう。	言語

11	ニュースキャスターは、番組のスターなのか、従者なのか考えましょう。	言語・象徴性
	書き込み用シート。	
12	ニュース記事のプロットの分析。	言語・象徴性
13	2つのニュース番組のことばによる比較。	言語
14	詳細な2つのニュース番組のことばによる分析。	言語
15	受信許可料金－不公平ですか、公平ですか。	受容者
16	『BARB（視聴率調査機関）』は、どれくらい役に立ちますか。	受容者
17	視聴者はどのようにニュース番組を利用しますか。	受容者
18	ニュース番組を時間帯、チャンネル毎に表に整理しましょう。	分類
19	ニュース番組を編成しましょう。	分類
20	有名人には飽きましたか。	発信母体・受容者
21	ニュース番組の視聴を向上させる方法を考えましょう。	発信母体・受容者
22	象徴性とイデオロギー－誰の物語を信頼しますか。	象徴性
23	バランスかバイアスか。	象徴性
24	混乱：悪役は必要ですか。	象徴性
25	混乱する専制君主。	発信母体

指導者は、ワークシートを活用しながら学習を展開することになる。各ワークシートの使い方は、指導書第2章「予備知識」に詳細に示されている。

例えば、指導書第2章「2-1.公共放送とニュース番組の歴史」に対応するのが、ワークシート1「現在のニュース番組における公共放送のあり方について確認しましょう。」、ワークシート2「ロール・プレイカード」（資料5）となる。これはニュース業界に対する基本的理解を目的とするものとなっている。続いて「2-2形式と慣習」に対応するのが、ワークシート3から14である。ニュース番組のメディア特性や構成要素、つまり、ニュース番組を成り立たせている仕組みに焦点をあて、その理解を目的とした読解活動と表現活動が提示されている。ワークシート15から21は、「2-3視聴者と組織」に対応している。受容者、つまり学習者自身の立場にたって改めてニュース番組のあり方について考えさせることを目的としている。最後「2-4象徴性とイデオロギー」に対応するのがワークシート22から25となり、ニュース番組がどのように社会を象徴しているのか、メディアコントロールとは何かを考えるためのワークシートとなっている。

これらは、順に全てを活用することでメディアの発信母体、類別、技術、言語、受容者、象徴性と、6アスペクトの順序でニュース番組へのアプローチが可能となるように編集されている。発信母体について考えるワークシートの場合でも、知識的な理解を目的とした客観的な情報提示であるワークシート1と、発信母体の側に立たせるロールプレイを目的としたワークシート2があるように、学習者の立ち位置を変えさせることで多角的に事象を捉えさせようとのねらいがみえてとれる。6アスペクトというアプローチ自体がそういう性格をもった手法で

あるが、そのうちの1つのアспектである発信母体へのアプローチであっても、多様な方法があることを示しているといえる。無論、発信母体への理解はこの2枚のワークシートに終わるものではなく、その他のワークシートにおいても、いち視聴者としてのアプローチと、発信者側に立ったアプローチと、その2方向が常に意識されていく。情報を受ける側と発信する側、その双方の理解を段階的に深めていく、そうしてようやく、ニュース番組のメディア特性を客観的に価値判断していく力が育まれていくという構成になっている。

これらのワークシートは、このままの順序で活用することも、指導者や学習者のニーズに合わせて組み替えることも可能である。その組み替え使用例の1つとしてあげられているのが、資料6に掲げた学習計画例である。指導書の第1章に「ニュース番組と公共放送」という単元タイトルで提示されている7週間のカリキュラムで、週にどの程度の時間を要するのかまでは明記されていないが、その内容から推察すると、3、4時間程度必要ではないかと考えられる。

ここでは4つの学習目的、歴史的な理解、商業的な理解、言語技術的な理解、社会的な理解があげられている。つまり6アспектアプローチがここでも目的となっている。結果として育まれる力は、「分析する力」、「議論する力」、「小論文を書く力」となっているように、メディア・スタディーズとはいえ、読む、話す・聞く、書くといった国語的な能力が問われていることがわかる。同時に、この学習単元が国語力を向上させるものであることも示しているといえる。

資料6 “Teaching TV News”における学習計画例「1-3.学習計画の例1」(“Teaching TV News” pp.10-12を訳出したもの)

●学習の目的	
以下の内容の理解を促進する：	
①ニュース番組が、公共放送の歴史的な状況の中にどのように位置づけられているかについて。	
②ニュース番組の広告と視聴率との関係について。	
③ニュースの取材、価値判断、取捨選択について。	
④管理における現在の変化：『Ofcom』とマルチチャンネルのニュース番組の衝撃について。	
●学習活動の成果	
①2つのニュース番組の詳細なことばによる比較分析の力。	
②公共放送についての議論する力。	
③ニュース番組と、その制度上の支配力と公共法との関係に関する小論を書く力。	
●学習展開	
第1週：ニュース番組への導入	
①初期のBBCニュースと最近のものを、5分のシーケンスを対象に比較させる。形式やコンベンションの違いについてブレンストーミングさせる。	ワークシート8 ワークシート14
②グループに分ける。公共放送の歴史についてのプリントを配り、それぞれのグループで話し合わせ、要点をまとめ、発表させる。 あるいは、	
②公共放送についての講義を行う。クイズ形式でテストを行う。	ワークシート1
③クラス内の視聴調査：どのニュース番組をみているか。それはなぜか。	
④宿題：家族や友人がどのようなニュース番組をみているか調査させる。	
第2週：視聴者調査の結果について話し合う。	
①番組表作り。BARB（視聴率調査機関）においてのニュース番組の状況を調べさせる。視聴率が低い理由を可能な限りブレンストーミングさせる。	ワークシート17 ワークシート18
②学習者の考えを補完するために、最新の記事を提供する。（www.mediaguardian.co.ukには、そのような情報が提供されている。）ITVテレビの視聴率シェアの低下に対する広告主の反応についても着目させましょう。	
③ブランド・アイデンティティ 3つのニュース番組の冒頭シーケンスを詳細に分析させる。 GMTV、Breakfast news、The Day Today。詳細に形式とコンベンションを分析させる。	ワークシート9
第3週：学習者にニュース番組の冒頭場面を絵コンテで表現させる。	
①ニュースの取捨選択と報道価値－進行表の設定 ニュース収集と通信社。 メディア帝国主義。	ワークシート5 ワークシート6 ワークシート7
②ニュースの製作 スポークスマン、PRエージェント。 ワークシートの情報か、最近のスポークスマンに関する記事を使う。	ワークシート24 ワークシート25
第4週：ニュース番組の象徴性について考える。	
①バランスと公平性の問題。－メーデー暴動、イラク戦争、または類似した最近の事件を使って。	ワークシート22 ワークシート23
②規則と所有権と新しいコミュニケーション法案に関する簡潔な情報を学習者に与える。グループで受信許可料について話し合わせる。	ワークシート15
③News at Tenの歴史と、視聴者数の減少の理由について調べさせる。	
第5週：詳細な分析－同じ日に放送されたニュース番組を比較する。	
①視聴して、クラスで話し合わせる。意見を書き上げるのは、宿題にする。	ワークシート13 ワークシート14
②「どのようにニュース番組をみさせるか」について考えさせる。	
第6週：これまで学んできたことをまとめる。	
①公共放送についてディベートを行うための準備をする。－役割を配する。それぞれの役における調査と準備を行わせる。	ワークシート21 ワークシート2
第7週：公共放送についてのディベートを行う。	

4. “Teaching TV News”の教授法

学習計画例（資料6）に示されている学習展開は、大きく分けると、第1・2週が分析活動、第3・4週が表現活動、第5週にまた分析活動に戻り、第6週で自分の考えをまとめ、第7週でディベートにのぞむという展開である。これらの活動を経て、学習者は公共放送について的小論文を完成させていく。

第1週目の活動の最初に提示されている活動は、単元テーマである「公共放送」、BBCの、過去と現在の5分間のニュース比較である。

情報を伝えることが中心であった過去と、よりショウアップされた現在。たった5分間ではあっても、その違いは明確となる。同じBBCのニュース番組がなぜこのように変化したのかを考えるのが学習者の課題となる。ワークシート14（資料7）では、番組を比較するための要素として、プレゼンターの衣装、髪型、メイクという、見てすぐわかる外見の要素が最初にあげられている。ニュース番組比較の場合、内容

面に目がいきがちだが、それは最後の要素として提示され、どちらかといえば周辺事項ともいえる、しかし、まさしく番組を象徴する存在である司会者に着目させ、また、さらに周辺事項ともいえる外見的要素に着目させていく。

演出の項目でも、色、舞台美術、大道具、小道具といったまるで映画分析をするかのような項目が並ぶ。いずれも、見てすぐ指摘できる要素であり、それをこたばで書き表すことによって差異がより明確になる。さらに深めるには、なぜ、その舞台美術なのか、なぜ司会者はそのような衣装を着ているのかといった、構成要素が表す＜意味＞を探索する活動へと移行していくことで、事実に基づいた、くわえて、クラス全員が共有する観点でニュース番組へとアプローチしていくことになる。ペアやグループで、誰もが指摘できる限られた観点から話し合いをすることで、学習者は、同じものが、どのように見えるのか、どのように受け止められるのか、それについてどのように考えるのか、その違いを確かめ、自らの価値観を自覚していくことに繋がる。

また、第1週での活動を6アスペクトの観点から見ていくと、①のメディアの言語分析活動、②の発信母体について知る活動、③④のメディアの受容者について考える活動というように、ここでも1セットの授業の中で、発信者、受信者の2方向からのアプローチが行われていることがわかる。第2週では、①で受容者、②で発信母体、③で言語分析というように、順序を入れ替えることで、アプローチ法のパターン化を防ぎ、どの角度からでも深められるような姿勢

資料7「ワークシート14」の項目を訳出したもの

	番組 1	番組 2
①キャスター： 衣装、髪型、メイク		
②話し方の形態		
③音楽		
④演出： 色、舞台美術、 大道具、小道具、 キャスターの位置		
⑤照明		
⑥カメラワーク		
⑦冒頭と結末の映像表現		
⑧トップ3のニュース		

作りが意識されている。そうした螺旋状のアプローチを行わせることで、学習者は段階的にニュース番組のメディア特性理解を深めていくことになる。

象徴的なのが唯一2度使用されるワークシート14(資料7)である。導入部で違いを意識づけるために使用されたワークシート14は、再び、第5週の本格的な分析用のワークシートとしても活用される。より詳細な分析を行わせる場合でも、入口を共通のものにしておくことで、ひとつの分析法として学習者に定着させ、活動の展開に合わせて徐々に深く掘り下げていくのである。

このような限定した観点は、第2週で使われるワークシート9（資料8）でも同様である。番組の独自性を見出すための観点として、音楽、グラフィックス、カメラワーク、編集、舞台装置、話し方、報道価値というように、音楽が最初の項目にあげられていることがわかる。冒頭を演出する音楽は、番組全体の雰囲気を作る重要な要素であることが示されているといえる。ついで、視覚要素が並ぶ。BBCのニュースの場合、現在はCGを用いたグラフィックスと色鮮やかなセットでエンターテインメント性が高い番組演出となっているが、元々、そうした演出は民放の手法であった。2004年時点の『NHKニュース10』のタイトルシーケンスがBBCと非常に似通ったものになっており、イギリスと日本というように国は違うが、いわゆる公共放送というものが置かれている立場に通じるものがあるのではと考えさせられる現象ともいえる。

ワークシート1(資料9)には、視聴率競争に勝ち抜くために変化することを選んだBBCの姿が説明されている。NHK同様、受信料で放送事業をまかなうBBCは、より高い公共性を保つべきという初代会長の意志が長く反映されてきたが、多チャンネル化や視聴者の興味関心の多様化からその対応を迫られているのが現状のようである。

資料8 「ワークシート9」を訳出したもの

⑨ 番組ブランドの独自性をみつけることができますか

2つか3つのニュース番組のタイトル・シークエンスを比較しましょう。

- 1 それぞれのチャンネルの独自性をどのように打ち立てていますが、分析する際に、以下の重要なスタイルの要素を確認しましょう。

- 貨物
- グラフィックス
- カメラワーク
- 編集
- 舞台装置
- 総し方の様式
- 特選俳優

- 2 これらの書籍がターゲットとしているのはどのような種類の受け手ですか。

- 3 タイトル・シーケンスが、番組がわらう受け手にとってどれくらい効果的だと思いますか。

資料9 「ワークシート1」を訳出したもの

① 現在のニュース番組における公共放送のあり方について確認しましょう

- ヘアになって、Reithの公共放送に関する観念の基本原則と、Gag Dikeによって再定義されたアウトラインを再確認しましょう。
- Reithと公共放送**
- 2003年の初頭、Gag DikeとBBCの両者は、公共放送の以下の価値への強執を述べた。BBCの価値を要約すると、

2003年の初頭、Gag Dyke と EBC の幹部たちは、公共放送の以下の組織への進出へと転換するため、EBC の組織を更新するプロセスを始めた。

1984年，DWC的竣工率

ある John Reith は、クロフォード委員会に放送に関する彼の見解を示した。そして、その見解は、放送における長期的展望を視野に入れたガイドラインとして定義された。彼の「メモ」は、1931 年、公共放送の基礎を作り上げ、今日、また、地球上の全ての放送の規定として影響を与えている。

Keith のメモのキーポイントは、放送が以下の
ようにあるべきだと述べている。

- 教育に、知恵を、進歩をもたらすもの
- 大衆の精神をリードするものでもって、進歩するものではない
- 文化的で、道徳的で、教育的であって粗くもの
- 人々の知識、努力、功徳の結晶を提示するもの
- 鋭意であるものと有言であるもの避け、高い遠望のトーンを促すもの
- 一般的なアクセスを確実にすることによって「国家の精神を」「とりの人間として」築いていくもの
- 国家の独自性を習得された民主主義と民族主義に社会的な統合力と結びつけて確認するもの
- コミュニティと政府の圧力から自由であるもの

公共放送の定義を変えること

- 品質
 - 多様性
 - 革新性
 - 持続性
 - 相互連携能力-様々な受け手とつながる
- 各ニュース番組の役割を分けてみましょう。
- 以下に其の概要を、お話を進めましょう。
- 1 公共放送に際する、Ruthの意図にをみて、
 彼が、各ニュース番組に付属したなかで、
 それはなぜかを考えましょう。
- 2 それぞれのニュース番組が再定義された
 ものととれ、くわしく調知していると思えますか。
- 3 あなたはどのようにテキストの「品質」を
 測ると思います。品質の概念は、ニュースの
 各ニュースジャンルに別々に適用するか。
- 4 あなたは Ruth の節のなかで、どれが私
 たちのマルチチャンネル放送におけるニュース
 番組として重要だと感じますか。

●ヘアではしなませよう。

資料10 「ワークシート5」を訳出したもの

⑥ 放送内容を決定する

グループで、GMTV か BBC Breakfast news のジャーナリストのどちらかを選びましょう。

- 以下の1のニュース記事を見ましょう。あなたが決めた読書館に向けて、会場で読むニュースを7つ選びましょう。
- あなたの書籍の経済価値に反って、放送内容を決めましょう。
- トップ3ニュースを確認しましょう。
- ニュースの見出しを確認しましょう。
- 見出しを決めましょう。

ニュース記事

- 1 結核菌の発見の偉功の再評価。
- 2 科学的な観念では、満洲平野に侵入を行った生物種であるとしている。
- 3 若い白人女性がイスラエルのにぎやかな通りに自爆テロを行った。
- 4 預言された結末の現実。
- 5 英語にもよるもうひとつのストライキについての話題。
- 6 音楽ホビーをダウンロードして盗賊犯たる有名な TV ニュースプレゼンター。
- 7 女王の葬儀の手帳。
- 8 エチオピアの叛乱の悲劇。
- 9 「度々訪問」：静けらったの駅裏の乗客は 3 年間禁房所へ。
- 10 70、80 年代に於ける有名なロックスターの賞賛詞。
- 11 インドとイスラエルのカンマと 2 の戦争が終結。
- 12 エキモンが世界ツアーに挑む。

資料10～12に第3週のニュース制作活動で使用されるワークシート5、6、7を掲げた。ワークシート5（資料10）では、放送内容、順序を考え、ワークシート6（資料11）で番組調査、ワークシート7（資料12）でニュース記事を書くとなっている。発信者になった場合には受信者の立場を、受信者の場合は発信者の立場を考えるというように、常に発信受信の関係性を意識させながら活動を行わせているのがわかる。ニュース番組の内容は、そのメディア特性と切り離させるものではない。チャンネル、時間帯、視聴者層といったコンテキストが放送内容や、演出を決定する。なぜ、そのニュースをトップに持ってくるのかは、そういった周囲の状況を分析するからこそ理解できるのである。ワークシート5（資料10）であげられているニュースが、ワイドショー的ゴシップ記事から今日の問題と幅広いのは、そうした社会のニーズとニュース番組の目的とをどのように一致させるのかを理解させるためである。

このような活動を踏まえると、ワークシート22（資料13）における象徴性とイデオロギーの問題を、より製作者の立場に立って考えることができたり、ワークシート13（資料14）が提示する分析内容も無理なく理解できたりするようになる。

シミュレーションやロールプレイは、その立場の理解を踏まえてこそ可能な活動である。ある時は客観的に分析し、あるときはその立場に立つ、その繰り返しによって、なぜ、製作者はそのような方法をとるのかということへの理解を深めていくのである。

以上のように、学習内容は、「ニュース番組」のみをとりあげるのではない。「ニュース番組」とはどのようなメディアなのかを、歴史的、社会的、大衆的、商品的に読み解く活動となっている。それゆえ、「今」に生きる学習者にとっての「ニュース番組」という観点にこだわる姿勢が特徴的といえよう。Webサイトを多用し、「今」の情報を学習者に確認させた

資料11 「ワークシート6」を訳出したもの

ワークシート6

番組内容をチェック
しましょう

- 同じ日の同じチャンネルで3つのニュース番組の最終の10分を見ましょう。
- グループで、ニュースの順序や内容に注意しメモしましょう。
- 報道番組についてのあなたのメモを比べて、なぜ、ニュース制作者が順序を定めたのか説明してみましょう。
- グループで、報道番組に基づいて、あなたが思いと思う放送順序を決めましょう。

資料12 「ワークシート7」を訳出したもの

ワークシート7

ニュースを製作しましょう。
—ニュース記事を書く。

あなたがITV イブニングニュース (19:30pm 放送) のニュース制作チームのジャーナリストであると想像しましょう。

または、

地方 ITV ニュース番組 (6:40pm 放送) のニュース制作チームのジャーナリストであると想像しましょう。

- 以下のニュース記事のための読み抜粋を書きましょう。
- インタビューや、出来事が起こった場面、あなた自身の通信録による説明レポートを含むことができます。時間は30分です。

ニュース記事

ジャーナリストの役割が述べられたため、小さな地方空港は全て賛同によって封鎖された。

18歳の少年が逮捕された。彼は殺傷し、持参していた。

反社会的な引き起こされ、あたりはずれに大騒ぎ騒がれた。

巨大な交通渋滞は、4時間以上の遅れを運転手たちにもたらした。

少年は、武装パーティーに行く途中であったことが判明し、後に釈放された。

資料13 「ワークシート22」を訳出したもの

ワークシート22

象徴性とイデオロギー：誰の物語を信じますか。

ここでの活動では、3つの異なるニュースになった出来事の原因を分析する。「ロンドンでのメーデー騒動」(2009年5月1日)、「ロンドンへの襲撃」(2003年3月)、「スターウォーズ」(2003年4月)

- ペアになって、ITV ニュースから事件のニュース機軸を見ましょう。
- Thought with Trevor McDonald における事件の報道について読みましょう。
- タイムズ、またはもう一つの新聞から、事件についての報道を見ましょう。
- 事件を異なる視座の意匠に書きましょう。
- 視座の違いに着目しましょう。
- 読者におけるバイアスに着目しましょう。
- 読者それぞれの立場においてインタビューされていますか。
- 読者の見方が形成されていますか。
- あなたの意見を表明しましょう。異なる視座の偏りはありませんか、どのようにありますか。
- バランスをとったリバイアスをかけたりする行為はそれぞれのニュースにどのようにありますか。

り、過去との比較を通して現代を見つめさせたり等、多角的なアプローチを行わせることで、現代に生きる学習者自身を客観的に見つめさせようとしているのである。

くわえて、実在の人物を用いたロールプレイ等、我が国ではなかなか行いにくい活動も、多く行われているのも特徴的である。現代社会の問題に対して、学習者としてではなく、その問題に関わる一員として具体的に考えさせ、発言させ、まとめさせる。社会と繋がった学習に自ずと展開していくのも、「ニュース番組」を用いた学習ならではの。

ワークシートは、読み物としての資料と発問集と学習者の書き込み用シートの3種類に分類される。つまり、ワークシートが手元があれば、学習者は主体的に学習を進めていくことも可能である。例えば、2つのニュース番組を比較するためのワークシート14（資料7）の場合、シートの左端列に比較項目、右側2列が書き込み用の空欄となっている。各項目の説明については、ワークシート13（資料14）に記されている。

ワークシート14（資料7）に挙げられている項目は、視覚的なテキストを分析する際の基本的な項目として、繰り返し、分析を行ってきた項目である。限定した要素、それも、どちらかといえば主要とは思われない要素を取りたて比較分析することで、より、2者の違いを浮き彫りにするのは、英国映画研究所が一貫して提案している方法論である。見てすぐ分かることを指摘し、それを積み重ねることで、学習者自身が自らの認識が何によるものなのかに気づいていくのである。

学習活動は、ペアやグループで行うものが多い。ワークシート14（資料7）のように、まずは自分の意見を書き出し、そのうえで他者と話し合う。観点が明確なうえに、視覚的要素が大多数であるため、話し合いは、なぜ、意見が違うのかについて考えることへと発展することが期待されている。客観的な番組比較を入り口にしながらも、学習者の価値観の違いについて踏み込むことの出来る学習方法となっている。それによって、ニュース番組を通して、学習者は、自らの内部に無意識のうちに育まれている価値観に意識的になろうとする姿勢が育まれていくのである。その意味で学習者は、ニュース番組を通して、＜私＞について学ぶといえる。

5. ニュース分析の具体

「みること」を意識することでどのようなことに気がつけるのか、実際のニュース番組の一面面を掲げた（資料15）。ニュース番組の分析というと、内容面、とくにことばの分析が重要であると考えがちだが、情報量の多いニュース番組のことば分析は、かなりの力量がなければ難しく、また番組が伝えることばを記録するだけでも大変な労力が必要となる。しかし、こうした

資料14 「ワークシート13」を訳出したもの

2つのニュース番組のことばによる比較

メディア理論家 Stuart Hall は、テレビは価値を伝達するものであり、「意見の表明」や「個人の発言」を伝えるものではないと述べています。彼はメッセージとしてこれらのコミュニケーションを捉えます。それらは、社会的に生産されて、文化制約にのまれ、世界がどのように感じているのかを説明するために共有される方法です。言い換えると、それらはイデオロギー、または価値を説明するシステムです。

2つのニュース番組を詳細に比較し、以下の内容について話し合います。

1. いくつかの程度で議論されるか。
それぞれの番組がグループ、またはシリーズに属するものとして個性的に描かれ、そのグループの最後の「典型例」の意味を背いているといえる。

2. 誰がその番組を作っているのか、誰がそのチャンネルを所有しているのか。
価値は、交換される商品、または利益 としてみなすことができます。

TV カンパニーがあまりに商業的であるか、公共の放送人、*Coleman* は、芸術的価値を保持するために、情報伝達で動かなければならないと考える。

3. 内容分析をする。

内容と記事の順序をリストにする。

4. 話し方の形式を分析する。
価値観はどのように表現されるか、どのように価値は優先順位に上げられるか、番組がどのような価値観を宣明していますか。

5. プレゼンテーションの形式を分析する。
番組のフォーマット、カメラのコンポジション、録音装置、スタジオセット、照明、プレゼンターの服装。

6. 価値のポイントに注目する。

カメラへの視線の方向付け、人種と性別の描写、その他の方法によって強調することができ、そしてそれらは、番組の価値を生み出し、視聴者を魅惑する。または引きつけるものとなる。

7. 付随する情報は何か。
一般に共有される考えや態度として、価値観に根拠される好ましい価値を強調することができたか、*Stuart Hall* は、これらの世界の観点を、価値の再考へと向かう瞬間にあると論じて、あらゆる分析はその見方を支持するか。

一場面の視覚的な比較は単純な手法でありながらもその差異がみつけやすく、それぞれの番組特性について考える材料と成り得る。その意味で、本指導書が提示した分析の入り口である、ワークシート14（資料7）は、大変汎用性の高いものといえよう。

ここに提示したのは、イギリスの『BBCWORDニュース』（資料15-1）、BBC『Ten O'Clock News』（資料15-2）、イギリスの民放ITVのニュース『ITV News at 10.30』（資料15-3）、日本の『NHKニュース10』（資料15-4）、テレビ朝日『ニュースステーション』（資料15-5）、『報道ステーション』（資料15-6）である。

例えばタイトルシーケンスを比べると、BBC『Ten O'Clock News』と『NHKニュース10』はともに世界地図等をモチーフにした光沢のあるCGを使っており、先述したように、とても似通ったつくりになっている。似ているのはそれだけではなく、元々9時のニュースを10時に移動したこと、それは民放のニュース番組に対抗するためであったことなど、状況も似通っている。男性キャスターと女性キャスターの組み合わせというのも同じだが、写真で見ると、BBCの方がより親しみやすい人物をキャスティングしているとの印象を受ける。ITVのニュースは、本来10時に放送していたが、時間変更等を行ったりなど様々な変遷を経て、現在（2004年時点）は10時半からになっているようである。プレゼンターのマクドナルド氏は、外見や姿勢の作り方から、NHKの今井キャスターと共通する点が多く指摘できる。

資料15 ニュース番組の視覚的比較

資料15-1 『BBCWORDニュース』⁽⁹⁾の代表的なカット（※画像は『BBCWORDニュース』より引用）



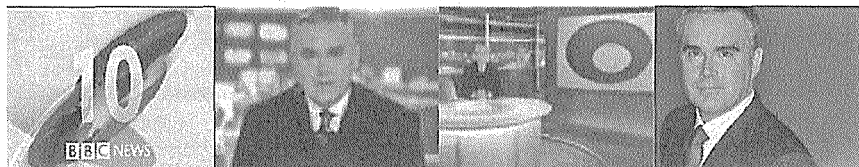
①冒頭CG

②ワンショット

③2ショット

④画面と対話

資料15-2 BBC『Ten O'Clock News』⁽¹⁰⁾を表す画像。Hue Edwards氏（※画像は「BBCウェブサイト」より引用）



①冒頭CG

②ワンショット

③画面と

※広報写真

資料15-3 『ITV News at 10.30』⁽¹¹⁾ Trevor McDonald氏（※画像は「ITVウェブサイト」より引用）



※広報写真

資料15-4 『NHKニュース10』⁽¹²⁾の代表的なカット。（※画像は番組より引用）



①冒頭CG

②冒頭トピックス

③ワンショット

④画面と

資料15-5 テレビ朝日『ニュースステーション』⁽¹³⁾の代表的カット。（※画像は番組より引用）



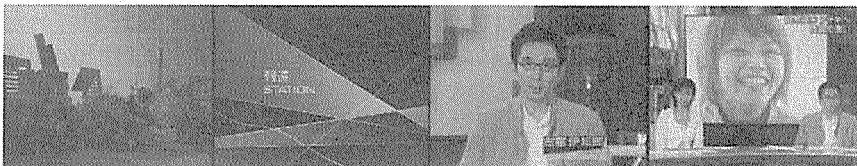
①冒頭CG

②冒頭トピックス

③ワンショット

④全体

資料15-6 テレビ朝日『報道ステーション』⁽¹⁴⁾の代表的カット。（※画像は番組より引用）



①冒頭映像

②タイトル

③ワンショット

④画面と

全体を見渡して異質なのが、報道ステーションのノーネクタイの古舘氏（資料15-6）ではないだろうか。いわばニュース番組の司会者の文法から逸脱したスタイルといえる。従来の慣習にとらわれない、より自由な番組作りを目指す司会者の姿勢が読みとれる。この『報道ステーション』とその前番組であった『ニュースステーション』を比べると、タイトルシーケンスが『ニュースステーション』が壮大であったのに対し、『報道ステーション』では手作り感が、スタジオのセットも、作り込んだ奥行きのあるセットが『ニュースステーション』ならば、巨

大モニターによって背後を見えなくし、より司会者の周囲に空間を焦点化させた『報道ステーション』というように、番組演出の手法に大きな違いが見てとれる。いかに『報道ステーション』が『ニュースステーション』の演出イメージを振り払おうとしているのかが、このような限定された情報からも読みとることができるのである。

6. まとめ

「ニュース番組」というメディアは、公共性と娯楽性の二面性を持つ。日本の場合、1985年に開始され、先頃終了した『ニュースステーション』の登場によって、娯楽の面が強調されるようになった。ニュース番組が伝える情報に何らかの「演出」が加えられていることは視聴者も気づいている。しかし、どのような演出が加えられているかを完全に理解しているわけでもない。また、日常の視聴においては、何が事実で何が演出かを考えながら見ることは稀である。本書が提示する学習活動の基本は、比べることである。冒頭の5分や、キャスターの髪型といった非常に限定した、見てすぐわかる比較分析である。そのような簡単な比較活動を踏まえて、ようやく、象徴性やイデオロギーの問題へと考察を深めることが可能になる。

また、ワークシート21からもわかるように、若者層のニュース番組離れはイギリスにおいても問題になっているようである。インターネットの拡大によって、情報をニュース番組に依存する必要性がなくなったからだとの意見も聞かれるが、やはり、社会に対する興味関心の薄れが顕著なようだ。それゆえに、ニュース番組をあらためて学習者の前に取りたててすることで、社会との繋がりを強く意識させようとのねらいもみてとれる。これは、日本でも同様の問題を抱えているといえる。

日本のニュース番組を用いた活動の場合、イギリスのそれほどには差異が認められないともいえる。それゆえに、より焦点をしばった学習活動を仕掛けることで、差異の意味に気づかせ、意識的に情報に取り組む姿勢を育むように考えていきたい。その意味で、視覚的要素にしばった学習を、小学生段階から取り組むことが重要だと考える。目で見た差異をことばで説明するという活動は、自らの印象の差異を自らのことばによって再認識する活動となる。〈みる〉という解釈に始まる国語学習の手法として、段階的な活動を構成しやすいという面でも、ニュース番組を用いた学習は有効だと考える。

以上、社会との関わりと公共性、娯楽性を兼ね備えたニュース番組ならではの表現を軸としたイギリスの動画リテラシー教育のありようを報告した。

- (1) Barrie Day, "Mixed Media", Oxford University Press, 2001

詳しくは拙著『国語科教育における動画リテラシー教授法の研究』（溪水社、2008年3月刊）にまとめた。

- (2) English Centre(ed), "OURSELVES", English Centre, 1980

- (3) Jenny Grahame, Kate Domaille, "The Media Book", English & Media Centre, 2001

- (4) 1933年設立。イギリスの映画文化振興を目的に活動する団体。教育部門は、カリキュラムの提言、教員研修、教材開発を行い、イギリスのメディア教育を牽引する。

- (5) シリーズ編集者Vivienne Clarkはメディア・スタディーズAレベル試験の主任審査官。
- (6) 『授業における動画テキストの活用とその指導—映画とテレビを使うための中学校教師用指導書』(“Moving Images in the Classroom-A SECONDARY TEACHERS' GUIDE TO USING FILM & TELEVISION” BFI, 2000) のpp.5-11に収録。
詳しくは拙著『国語科教育における動画リテラシー教授法の研究』(溪水社, 2008年3月刊) にまとめた。
- (7) 訳は、松山雅子「イギリス国語教育におけるメディア解釈—新たなよみの教育の模索—」(『学大国文』1995年2月, pp.6-7)
- (8) Eileen Lewis (ed.), “Teaching TV News” 2003, BFI
Eileen Lewisは、ケントにあるMaidstone Grammar Schoolのメディア・スタディーズと国語の教師。GCSE試験の主任審査官であり、Aレベル試験の審査官も務めていた。
- (9) 1994年7月より日本国内でのサービスを開始。
- (10) 1970年9月『Nine O'Clock News』として放送開始。2000年9月より10時に。2003年1月からプレゼンターがHue Edwards氏に。
- (11) BBCのニュースが10時に変更されたのに伴い、時間帯を変更した。
- (12) 2000年3月開始。2006年3月放送終了。
- (13) ANN系列。テレビ朝日、オフィス・トゥー・ワン共同制作。月～金、22時(21時54分)～23時17分。1985年放送開始。2004年3月放送終了。
- (14) テレビ朝日、ANN系列。月～金、21時54分～23時10分。2004年4月開始。

(本学准教授)